

注力領域と結果（成果）

注力範囲としては、「文構造を体系的に理解すること（=文章の骨格を抑えられるようになる）」という点を意識した。これによって、文法・文章問題のいずれの読解力も深めるといふ狙いがある。成果としては、その他の受験勉強の成果もあるかもしれないが、当初は全くと言っていいほど理解できていなかった範囲においての正答率が格段と上がり、誤答した場合も、なぜ間違っているのかをきちんと説明できる場合が増えた。また、授業への態度もより意欲的・積極的なものになっていたように思われる。

注力領域と結果（改善点）

改善点としては、文章問題の対策に充てる時間が十分に取れなかったことにある。過去問演習を通して tips を伝えることはできたが、時間の兼ね合いで解き方を意識した演習量が十分に取ることはできなかったように感じる。文法問題では正答率の上昇が見受けられた一方、文章問題では、内容が十分に理解できていない場合も散見された。英語を体系的に捉えることが実際の演習で活かされるためには、自主学习を含め更なる演習量が求められる。また、リスニング問題に関しても授業で扱うことができなかった。

■本部町における授業講評

各担当講師の授業における①授業内容の成果、②課題とその対応をまとめる。

小学5年生

小5国語

注力領域と結果（成果）

①論理的な消去法にしたがって記号問題に回答すること、②漢字をパーツでわかりやすく覚えること、の二点に注力した授業を行なった。①に関しては、こちらが問いかけるとその記号が誤っている部分を的確に回答できる生徒が増えていた。②に関しては、生徒たちもかなり楽しく実践してくれており、漢字をパーツに分けた言葉で説明してくれるようになった。月例テストでは、②を試みた形跡が答案によくみられていた。

注力領域と結果（改善点）

最も大きな改善点は生徒の集中力を養えなかったことである。個別に質問すると論理的な思考を辿れる生徒でも、月例テストでは疲れてしまった様子で解答を放棄している姿がまま見られた。普段の問題演習からしっかりと時間を定めて実施することが重要だったと考えられる。生徒間のやる気や学力の差が大きかったため、そのような画一的な授業は難しかったが、学ぶことが決して嫌いなわけではない生徒たちなので、メリハリを楽しく学べる授業をめざすべきだろう。

小5算数

注力領域と結果（成果）

本授業では、①約分のし忘れや単位の変換忘れといった安易なミスを防ぐこと、②確実に基本的な問題に正答できる力を養成することを目的に、躓きやすいポイントを中心とした解説と基本問題の重点的な演習に注力した。結果として、基礎的な問題であっても誤答が散見された当初と比して、正答率が向上した。また、児童一人ひとりに自信が芽生えたようで、自発的に解答する場面も増えた。

注力領域と結果（改善点）

基本問題対策に注力する一方で、クラス内の学力差が大きいことも関係し、応用問題を十分に扱うことができなかつた。また、一部自宅から出席している児童がいたため、一体感と緊張感のある、児童たちが切磋琢磨できる授業環境をうまく整えることができなかつたことも改善点である。こうした課題に対する今後の対策として、フォローアッププリントの用意や定期的な小テストの実施が有効と思われる。

小学6年生

小6国語

注力領域と結果（成果）

本授業では、①漢字や文法等の基礎力の養成、②読解問題における論理的思考の2点を目的にテキストの演習を行った。結果として、月例テストでは漢字問題の正答率は比較的高いものだった。また、読解問題も当初に比して解答までの筋道を答えてくれることが多くなった。

注力領域と結果（改善点）

演習問題を中心に組み込んだが、回答作成を目的に時間制限を厳しく設けなかつたため月例テスト本番で回答しきれず点が伸びていない生徒がいた。演習の方法も一通りではなく回答作成のやり方を学ぶ、時間内に解く力を身につけるなど目的をそれぞれ分けて行う方がより効果的だと感じた。特にテストを意識した形

式での演習は中学に入った後の定期試験でも役立つはずなので今後は実施したい。

小6算数

注力領域と結果（成果）

本授業では、①計算問題や図形問題等の中の基礎的な問題に正解できること②約分ミスなど初歩的なミス減らすことの2点を目的に授業を行った。①に関しては、以前と比べて授業内の演習や宿題の正答率が上がった。②に関しては、当初は約分ミスをした誤答があった時に、私の指摘で気づいていたものが、自分の力で気づけるようになっただけでなく、他の子のミスにも助言するようになった。

注力領域と結果（改善点）

改善点は2つある。1つ目は、授業内の問題演習の際に時間制限を厳しく設けなかったことだ。回答時間の目安は伝えていたものの、生徒が満足のいく回答ができるまで考え抜かせることも大切にしていたため、結局は生徒が終わったタイミングで解説を始めていた。そのため、テストになると問題量に対して計算スピードが追いつかない様子だった。2つ目は、発展問題対策に時間を割くことができなかったことだ。テストでは応用的な思考を求められる場面も多々あるので、それに対応できるようにもっと指導すべきだった。

<東村, 波照間, 黒島における成績推移>

10月、12月、2月に実施した月例テストの成績推移を学年別にグラフにまとめた。横軸はテスト実施月、縦軸は偏差値(全国平均を50とする)を表している。その下に、各回の受験者数と担当講師によるコメントを付した。

※ 母集団の数が小さい推移図を読み取る際には注意が必要である。一人の生徒が極端に低い点数をとった場合、全体の平均点が大きく下に引っ張られることになり、全体に対する個人の影響は大きくなる。

例) A : 76点、B : 78点、C : 82点、D : 84点、E : 25点

AさんからDさんの平均点 (n=4) 80点

AさんからEさんの平均点 (n=5) 69点

この場合、Eさん1名で全体の平均点を11点下げていることになる。

重要：2月テストで偏差値が低いことについて

① 2月テスト範囲の網羅度の高さ

2月に実施したテストは出題範囲が1年の学習カリキュラム全単元となっており、授業の中で扱うことのできなかつた単元も多く出題されている。それに対して、他の月のテストは塾で扱った単元が出題範囲になっている。

② 授業開始日

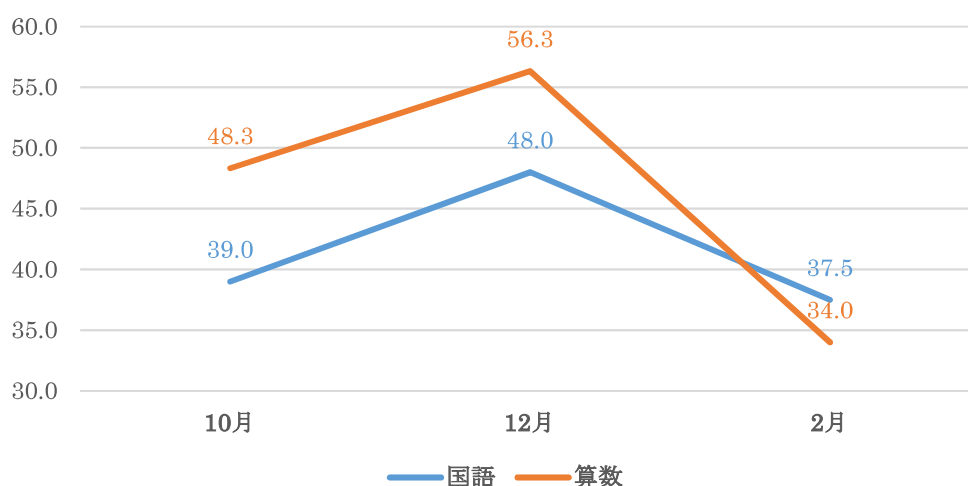
オンライン授業のスタートが、8月（東村/波照間・黒島）、10月（本部町）となっており、実質授業期間は4ヶ月～6ヶ月である。そのため、授業で扱ったのは、2月テストの出題範囲の1/3～1/2となった。

< 来年度にむけて >

全体の講評でも述べたが、授業の効果を正確に解釈することが困難になってしまったため、来年度以降は2月の受験は避けるべきだと考える。

（ただし、授業の開始が4月であれば、効果測定に2月テストを用いるのは問題ない）

小学5年生 偏差値推移



受験者数	10月	12月	2月
国語	3	3	2
算数	3	3	2

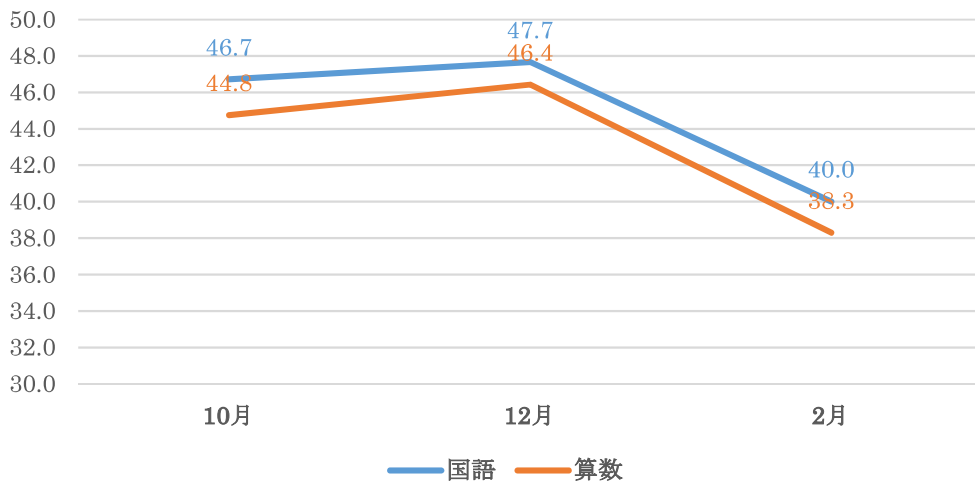
【小5国語】

受験した生徒が各月で異なるため、実質的な偏差値の推移を把握することは難しいが、授業によく出席していた生徒の成績は向上していた。偏差値推移図では偏差値の改善は見られないものの、授業にしっかりと出席した生徒の偏差値は上昇したと考えられる。

【小6国語】

受験者が異なるため、正確な推移を図ることは難しいが、受験者の回答率に関していうと、初回と比べて格段に増えていた。また、授業で扱った範囲に関する正答率はやや上昇していたように感じる。偏差値推移には現れていないが、生徒の粘り強さという点では成長が見られる。

小学6年生 偏差値推移



受験者数	10月	12月	2月
国語	7	6	6
算数	8	7	7

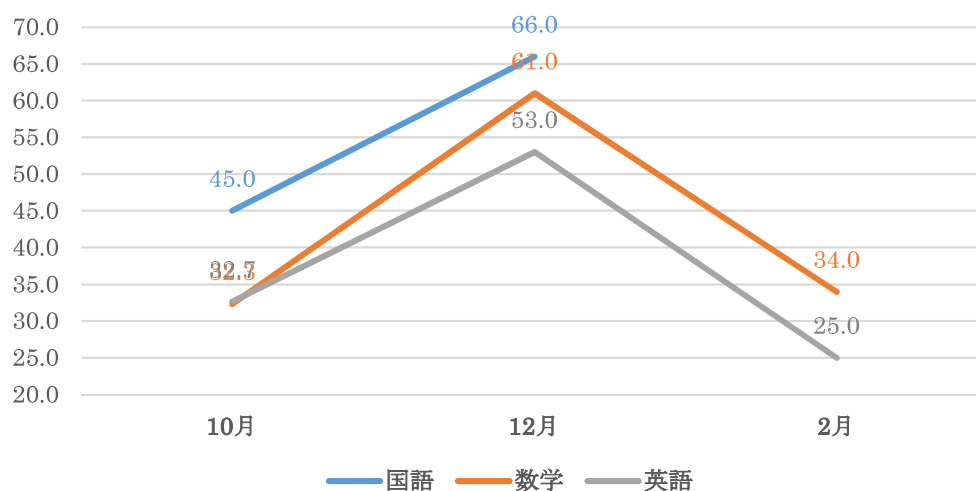
【小6 国語】

受験した生徒が異なるため正確な比較ができないが、全体として偏差値は下がってしまった。一方で、正解とはならずともこれまでは空欄になっていた後半の文章問題に関して、諦めずに回答を行うなど試験への姿勢という意味では成長が見られた。

【小6 算数】

月ごとに受験した生徒が異なるため比較は難しいが、各々の成績に関していうと概ね上昇もしくは維持されていた。基本的な問題で安定して点を取ることができていたためと考えられる。

中学1年生 偏差値推移



受験者数	10月	12月	2月
国語	3	1	0
数学	3	1	2
英語	3	1	2

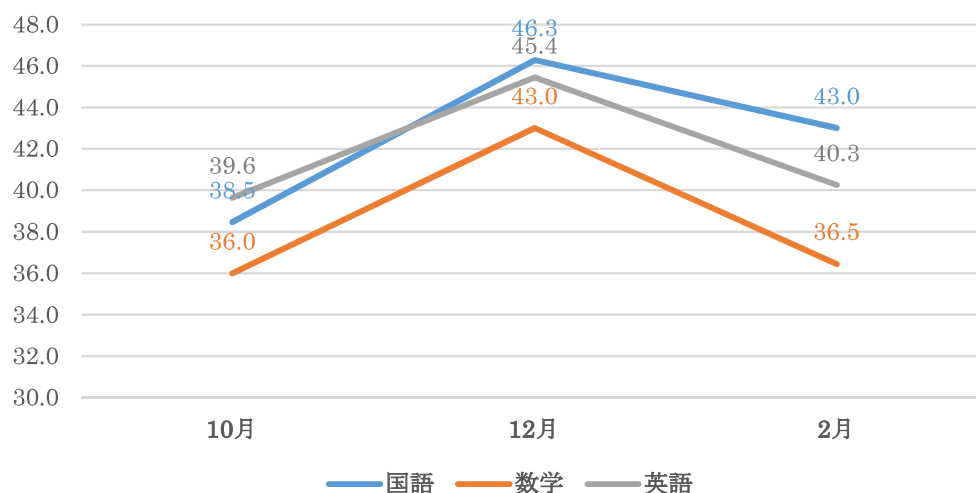
【中1 数学】

受験者が少なく、偏差値推移から成果を読み取ることは難しいが、回答率に関して見ると、全ての受験者に成長が見られた。初回は空欄が目立ったが、授業内容として扱った範囲を中心として、しっかりと問題に取り組んでくれるようになったという点では成長が感じられる。

【中1 英語】

受験者が少なく、受験者が異なるため正確に判断することは難しい。それぞれの成績に関していうと、出席率の高かった生徒は成績が向上し、出席率が低かった生徒はあまり成績に変化が見られなかった。

中学2年生 偏差値推移



受験者数	10月	12月	2月
国語	11	7	2
数学	11	9	11
英語	11	9	8

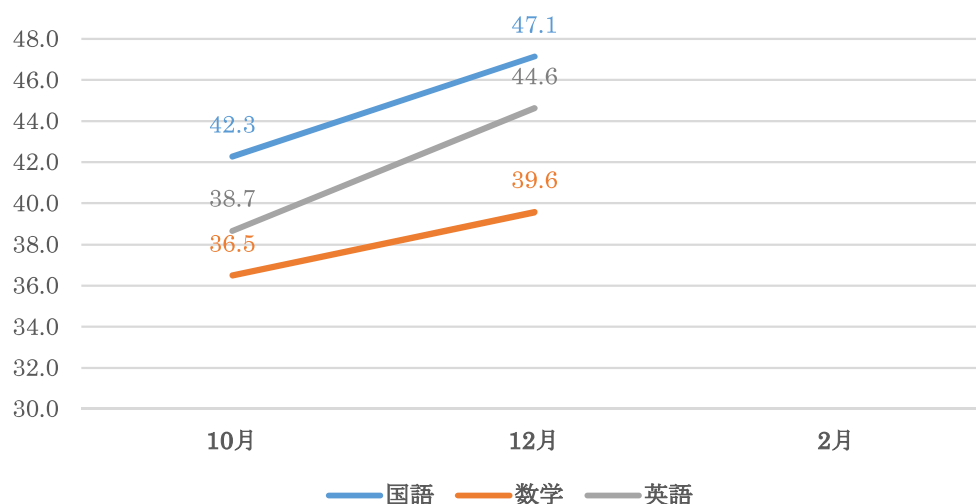
【中2数学】

10月から12月にかけて偏差値が上昇した一方、2月にかけては低下してしまっただ。この原因としては、復習の不十分が考えられる。生徒は皆とても真面目に授業を受けてくれており、授業中の指示もしっかり聞いて勉強することができていた。復習をしつつ着実に知識を獲得すれば今後、偏差値が大幅に伸ばせると考えられる。

【中2英語】

各月で受験した生徒が異なる上に各生徒で受験状況が異なるため、実質的な偏差値の推移を正確に把握することは難しいが、授業によく出席していた生徒の成績は向上していたため、授業での学習が生徒の成績向上に寄与したと考えられる。

中学3年生 偏差値推移



受験者数	10月	12月	2月
国語	11	7	-
数学	12	7	-
英語	12	8	-

【中3国語】

生徒ごとに、授業の参加やテストの受験状況が毎回おおきく変動していたため一律には言えないが、おおむね成績は上昇したと思われる。受験を前に、点数をあげるテクニックや、必要な知識の詰め込みが出来たからだと考えられる。

【中3数学A】

生徒ごとに受験状況が異なるため、テストの参加率は高くはなかったものの、参加した生徒の成績は平均して向上した。特に、計算問題の正答率は高く、高校の学びに向けて十分な基礎づけができたと思われる。

【中3数学B】

1月から担当を受け持ったため、生徒が実際にテストを受けた時期に関わることはできず、判断は難しいが、偏差値の推移から推測するに、生徒の成績は上昇していると思われる。

【中3英語A】

各月で受験した生徒が異なる上に各生徒で受験状況が異なるため、一概に判断することはできないものの、偏差値推移図では上昇したと捉えられる。受験に向けた学習が成績の向上につながったと考えられる。

【中3英語B】

受験者が異なるため正確ではないが、偏差値推移からも見て取れるように全体的に成績はUPした。各人の受験勉強の成果もあると思うが、基礎知識に加えて、当初は見られなかった問題を最後までやり抜くという粘り強さも備わり、点数UPに繋がったと言える。

<本部町における成績推移>

11月、2月に実施した月例テストの成績推移を学年別にグラフにまとめた。横軸はテスト実施付き、縦軸は偏差値(全国平均を50とする)を表している。その下に、各回の受験者数と担当講師によるコメントを付した。

※ 母集団の数が小さい推移図を読み取る際には注意が必要である。一人の生徒が極端に低い点数をとった場合、全体の平均点が大きく下に引っ張られることになり、全体に対する個人の影響は大きくなる。

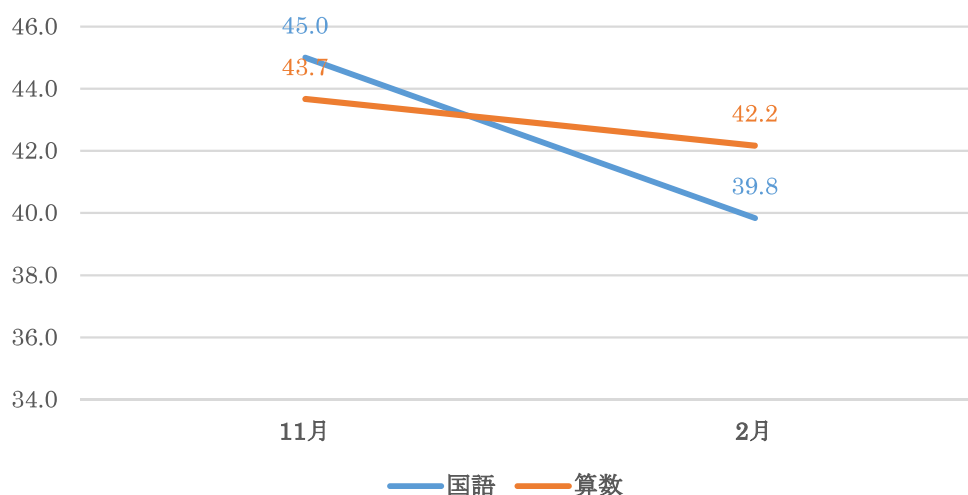
例) A : 76点、B : 78点、C : 82点、D : 84点、E : 25点

AさんからDさんの平均点 (n=4) 80点

AさんからEさんの平均点 (n=5) 69点

この場合、Eさん1名で全体の平均点を11点下げていることになる。

小学5年生 偏差値推移



受験者数	11月	2月
国語	10	6
算数	9	6

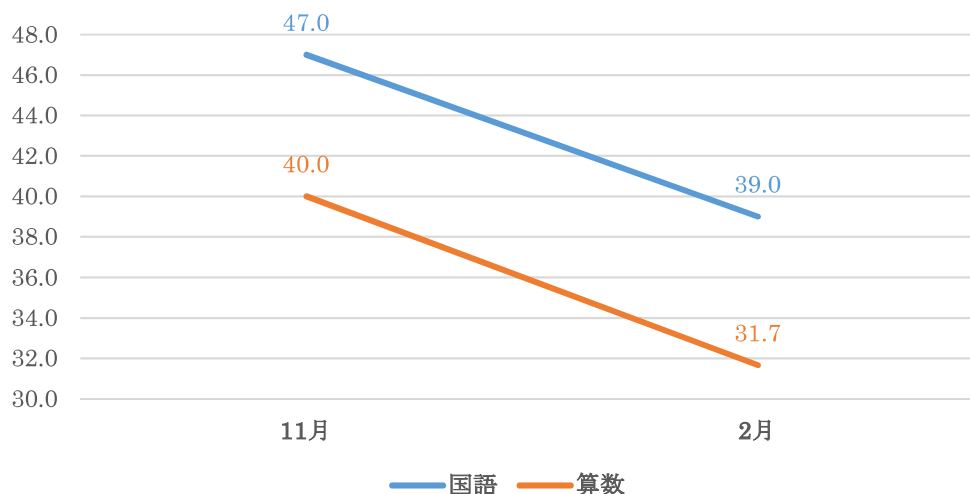
【小5国語】

全体的に偏差値は低下してしまっただ。個々の生徒の成績をみると、前回から大きく点数を伸ばした生徒がいた一方、点数をかなり落とした生徒もいた。その主要因として、生徒の人数がテストとテストの間はかなり増えたこと、成績の良い生徒の受験がなかったこと、テスト中の集中力の差が大きかったことなどが考えられる。

【小5算数】

偏差値はわずかに低下してしまっただ。しかしながら、11月のテストでクラスの平均点以上だった児童に限定してみれば、その多くが2月のテストで点数を伸ばしている。また、注意不足や見直し不足による安易な失点の数は明確に減少しており、これらは授業での演習を通じた基礎力と集中力の向上のあらわれと考えられる。

小学6年生 偏差値推移



受験者数	11月	2月
国語	2	2
算数	1	3

【小6 国語】

全体として偏差値は低下した。1月以降に授業を引き継いだため、11月の試験については言及できないが、2月のテストについて漢字などの基礎的事項では正答率が高かった。また、読解問題については時間不足で解ききれしていない生徒がいたため、演習を重ねて時間配分になれば自ずと点数や偏差値は上がると考えられる。

【小6 算数】

全体的に偏差値は低下してしまった。個別に生徒の成績を見ると、2月に受けた生徒はどちらも点数が少し下がっている。それらの要因として、11月に成績の良い生徒の受験がなかったことや小6の2月のテストは全範囲から出るので事前準備でカバーしきれなかったことが挙げられる。また、問題量も多く、半分しか問題に取り掛かれていない生徒もいた。